

学校課題研究授業⑦ 12月22日（平成26年度）

※研究授業の④～⑥は、諸般の事情から掲載されていません。

学校課題

自分の言葉で考え、伝え合える児童の育成

～一人一人の力を高め、思考を広げ表現できるようにする取組～

本校では、上記のような学校課題を設定しました。伝え合う力を「共感的な人間関係を土台に、豊かな語彙をもち、適切な言葉を選んで自分の考えを広げたり深めたりする力」ととらえ、個に応じた適切な支援にも努め、言語活動を通して思考力・表現力の向上をめざして研究を進めてきました。

本年度は、話したり書いたりして、自分の言葉で伝え合える力を伸ばしていくために、書くことによって思考力を高めていく手段・方法も研究してきました。また、思考力・表現力を豊かにしていくために、言語力の基礎となる語彙力を伸ばせるような指導の工夫や日常活動に生かせる方法についても研究してきました。そして、育てたい児童の姿を明確にし、育てたい力の具体策をさらに発展させ、個の特性にも配慮しながら取り組んでいくことで、副題のように一人一人の力を着実に伸ばしてこられたと思います。

今回は、「組み立てを考えて物語を書こう」という3年生の国語の授業を紹介します。

これまでの研究実践の課題を踏まえて、単元を貫く言語活動の新しい型が試みられました。読むこと・書くことの複合単元で、しかもABワンセット方式の単元計画による展開でした。さらに、「比較教材文」の活用、色分けした「センテンスカード」を活用した板書、カラーのワークシート、ICT活用、掲示物、並行読書など、ユニバーサルデザインの授業（焦点化・視覚化・共有化）を意図した教材や展開の工夫が実践され、わかりやすく、ねらいに迫ることができ、参観者にとっても大いに参考になる授業になりました。

一方で、児童の読む力、学習のスキルや態度には、まだまだ課題も多く、指導者の宇都宮大学教育学部准教授の原田浩司先生からは、次のようなご指導をいただきました。

- 基礎学力の定着や個に応じた「読み・書きの力」の補強を図り、将来につながる学力を高める特別支援教育の充実のため、授業以外の部分でも何らかの具体策を打ち出せるとよい。



- 思考力を高める受動的積極性を重視した学びの質の見直しが必要であり、そのために、例えば、ほかの人の話をじっくり聴くとか、小グループで共有化の時間（誰でも話ができる内容で、自分の言葉で考え、話し合うこと）をたっぷり取るなどしていくとよい。

